

< 今日の説教のポイント 創世記1章1-5節、1章26節-2章3節 >
イエス様が与えられた意味を聖書の最初から順に考えていきます。

1 神様が世界を造られた → 私たちが生きているのは偶然ではない！

聖書は、世界が造られていく様子を記した創世記1章から始まり、「神は～と言われた。すると、そのようになった。神はそれを見てよしとされた」と繰り返し語って、6日間で世界ができたことを記しています。「24×6 時間でできたの」と問うても無意味です。創世記は小学生の夏休みの朝顔の成長観察日記とは違います。事実ではなく真理を伝えようとしたものだからです。その真理とは「この世界は偶然できたのではなくて、神様がお造りになったのだ」ということです。私たちが偶然にできて生きているだけなら「混沌」(1)で不安の中に置かれ続けます。しかし、神様が私たちもこの世界も神様によって造られたことを知って生きる時、私たちの生に意味を見出せます。「神様がなぜ私を造られたのか」を追い求めて聖書を追っていく時にその意味が分かり、生きる意味と生きる力が与えられてくるのです。

2 人間は神様の被造世界を管理する役割を担う者として造られた！

創造の第六日目に人間が造られました。「全てを支配させ、従わせる」(26,28)とあるからといって間違っはなりません。実はそれは、全ての被造物が造られたことを喜び合って神様に感謝して生きられるように人間に委ねられた「管理・運営・世話する：stewardship」役割を意味しているのです。聖書では、王は民を導き神の平安の中に置く役割を負った存在であるのと同じです。それが神様が王に民を支配させられる理由です。六日目にこの世界に全てが揃い、それを人間が世話をしていく体制が整った時に、神様はそれまでの「良い」ではなく「極めて良い」(1:31)とされたのです。翻って、今の世界はどうでしょうか。人間がこの務めのために与えられた知能や技能は、むしろ世界の他の被造物を人間が自分のために利用するために用いられ、その結果世界に訪れた状態は「極めて悪しく」なっています。聖書のこの箇所を読んで初めて人間が戻るべき姿が示され、民族や肌の色の違いを超えて神様によって造られた被造物という点で一つとなれて、むしろその違いを生かし合い、協力し合って取り組んでいけるのではないかと思えてきます。そうなれるために神様はイエス様を与えて下さったのです。それが分かるために神様は聖書を与えて下さったのです。